

岐阜の水枯れ問題取材 「リニア計画はこれでいいのか？」 ジャーナリストの井澤宏明さん講演

山梨県の実験線を走行するリニアの試験車両 (Photo AC)

東京・品川—名古屋間を最短 40 分で結ぶという“夢の超特急”リニア中央新幹線は、当初目標の 2027 年開業が「34 年以降」となった。静岡県では川勝平太元知事が大井川の水量減少に異を唱え続け、その川勝氏が舌禍で退場したとたん、岐阜県では「水枯れ」が発覚した。現場では何が起きているのか、計画はどうなるのか。岐阜を拠点にリニアについて取材し続けているジャーナリストの井澤宏明さん (57) が、名古屋での講演会でその問題点を明らかにした。

■「オタマジャクシがひからびていた」……………

井澤さんは読売新聞記者を経て 2012 年に独立。フリーランスとしてリニア問題のほか名古屋市政も取材して週刊誌などに寄稿。共著として『リニアはなぜ失敗したか』『「表現の不自由展」で何があったのか』（いずれも緑風出版）を著している。

今回は筆者が主宰する一般社団法人「なごやメディア研究会」と異業種交流団体の「CRN（中部異業種間リサイクルネットワーク協議会）」が共催する 7 月 25 日の勉強会で、名古屋市中区の名古屋市市民活動推進センターを会場に「どうなる!? リニア 水枯れの現場から」と題して講演した。

水枯れの問題は 5 月 15 日、岐阜県瑞浪市大湫（おおくて）町での被害発生を中日新聞や岐阜新聞が一齐に報道。井澤さんは翌 16 日に現地に入り、ため池や井戸の様子を映像に収め、被害を訴える住民の声を拾った。

「ウシガエルの鳴き声をする季節なのに聞こえなくて、池を見に行ったらオタマジャクシがカピカピになっていたとか、生活用水に使っていた井戸が枯れ、東濃用水という水道に切り替えてもらったといった声があった。田んぼをやっている人は田んぼの水の引きが早いと、田植え前だったので心配していた」という。